

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

福岡県 福岡市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	20,000	小規模	1	5,817
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	46.0	31	8,916	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は安定して100%を超え、累積欠損金は生じていないことから、類似団体と比較して健全な状態を維持している。

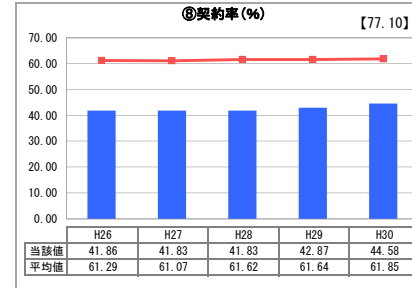
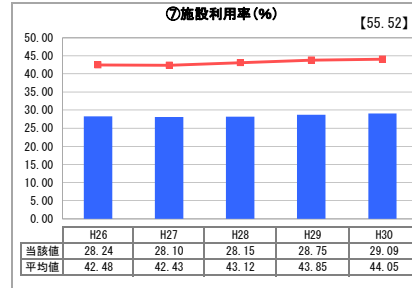
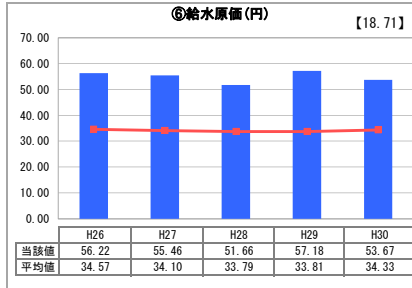
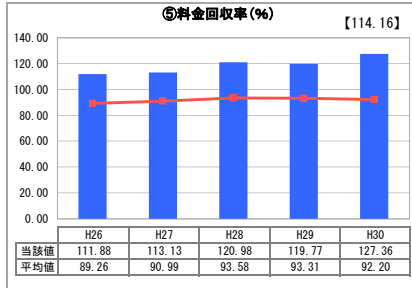
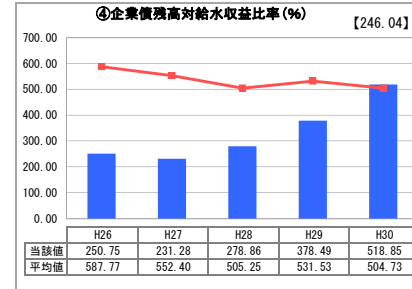
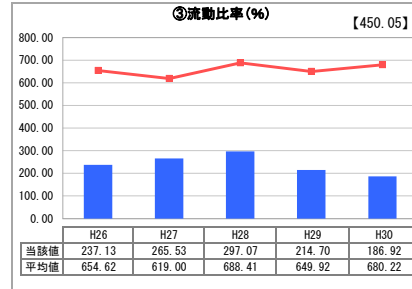
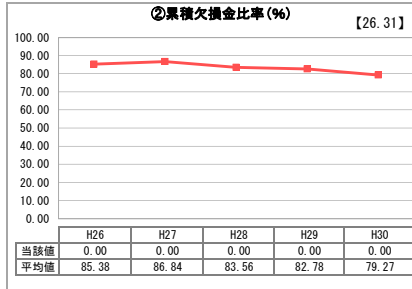
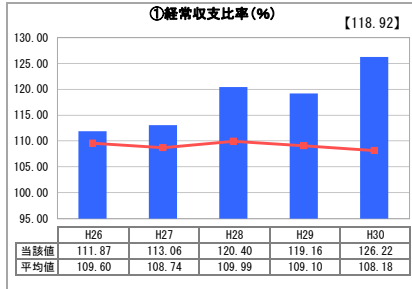
一方で、老朽化した基幹管路更新のために企業債を活用してきたことにより、企業債残高は給水収益の約5.2倍と、類似団体平均と同程度となっている。

給水原価は類似団体平均より高く、供給単価も累積欠損金を生じさせないようにするため高くなっており、結果として、料金回収率も高い傾向にある。

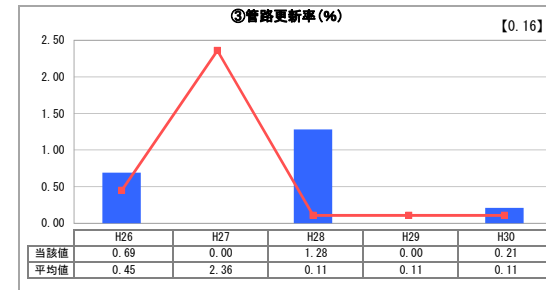
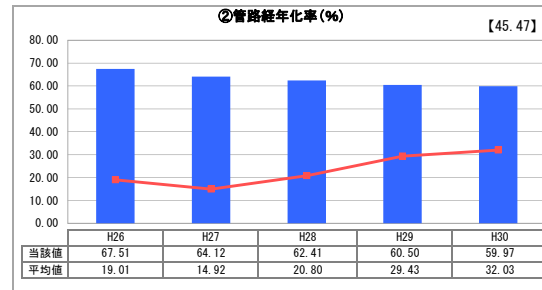
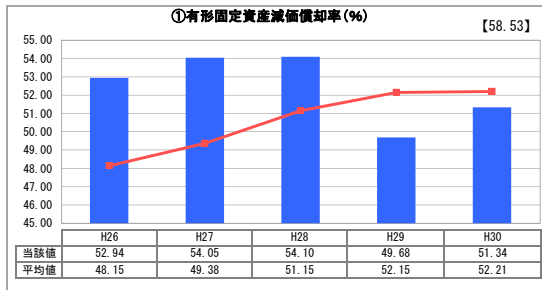
流動比率については、類似団体平均を大きく下回っているものの、例年100%を上回っているため、支払い能力に問題はない。

また、効率性について、施設利用率・契約率ともに類似団体平均を下回っており、新規ユーザーの獲得や契約水量の増加が課題となっている。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

毎年度安定的に純利益を確保しており、経営の健全性は維持しているが、依然として多額の企業債残高を抱えており、中長期的に経営は厳しい状況にある。

現在、老朽化した配水管の更新事業を進めており、企業債残高増が見込まれるため、安定経営のために経営の効率化や需要拡大が課題となっている。